



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な内容

- 3面 マンモグラフィ集団検診、「医師立ち会い不要」へ
4面 ピンクリボンフェスの新コンセプト
6面 休眠預金活用シリーズ③
がん患者の性の悩み専門相談

新型コロナで再び緊急事態宣言 10府県は3月7日まで延長 年度末、受診者数の回復に打撃

歯止めがかからない新型コロナウイルスの感染拡大で1月8日、埼玉、千葉、東京、神奈川の4都県に再び緊急事態宣言が発出され、同14日には栃木、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡の7府県も対象地域に加わった。2日3日現在、栃木県は新規感染者数や医療提供体制の指標が改善したとして2月7日までで宣言解除が決まったが、東京や大阪など10都府県は3月7日まで1か月延長されることになった。昨年春からのコロナ禍で激減しているがん検診受診者数を回復させるため、例年なら閑散期にあたる1～3月にも集中的に組まれている各支部の検診日程は大きな影響を受けている。

＝2面に関連記事

昨年4月～5月、全国を対象に発出された最初の緊急事態宣言が解除されるにあたって厚生労働省が出した通知

は、がん検診などの各種健診は「3密」の回避など感染拡大防止策をとったうえで「その意義や実施主体の責務などの制度趣旨にのっとり、適切に実施すること」としている。

再び緊急事態宣言が出された場合の取り扱いについては「集団で実施するものにはついては、原則として実施を延期すること」とする一方、実務関係者向けのQ&A集では「集団」と「個別」の区分について「『三つの密』が生じる環境であるかどうかという観点で判断を」と指摘。必ずしもすべての延期を求めるものではなく、3密が生じない「個別」の環境と十分な感染防止対策を前提に、地域ごとの感染状況を踏まえて検診を実施することは可能との考え方が示されている。

いくつかの支部に尋ねたところでは、一部の自治体を除き、住民検診も

ガイドラインに沿った感染防止対策をとって実施されているところが多い。

各支部の積極的な受診勧奨と過度な「受診控え」の弊害を訴える啓発や報道もあって回復しつつあった受診者数だが、再度の緊急事態宣言で急速に足どりが重くなっている。

2度目の緊急事態宣言が出た地域の支部では「検診会場への1回あたりの来場者の数が減っている。追加の日程を組めるのも2月いっぱい限度」だと語る。

緊急事態宣言が出ていない地域でも「地元の感染状況が比較的落ち着いていると直近の日程の予約は入るが、2か月先となると予約が入らない」。しかし、その一方で「受診勧奨のチラシを新聞折り込みすると反応率は高い」という。

がん相談ホットライン、日・火を休止

緊急事態宣言の再発出を受け、日本対がん協会が運営する無料電話相談「がん相談ホットライン」は1月8日から当分の間、日曜日と火曜日の相談業務を休止している。受付時間は昨年春以降の短縮態勢である1日6時間(午前10時～午後1時、午後3時～6時)

としている。

感染拡大の収束にまだ見通しが立たず、がん患者さんや家族から不安を訴える相談が引き続き入っている。こうした時こそ患者さんや家族に寄り添うことがホットラインの社会的使命であると判断し、相談員の感染防止策を徹

底しながら業務を続ける。

専門医、社会保険労務士による電話相談の予約受け付けも火曜日は休止している。

予約・問い合わせは火曜日を除く平日の午前10時～午後4時に専用番号(03-3541-7835)へ。

がん相談ホットライン 03-3541-7830

時間は10:00～13:00 15:00～18:00

当分の間、日曜日と火曜日は休止しています(祝日も休止)

態勢縮小のため電話がつながりにくいことがあります。何卒ご了承ください

専門医、社会保険労務士による電話相談の予約は
(火曜日を除く平日午前10時～午後4時)

専用番号 03-3541-7835へ

新型コロナ動画シリーズに緊急メッセージ

「がん検診は不要不急ではありません」

11都府県への新型コロナウイルス緊急事態宣言の再発出で全国的にがん検診の受診をためらう人の増加が懸念されることから、日本対がん協会はホームページの動画シリーズ「がん患者さんのための新型コロナウイルス対策」に中川恵一・東京大学医学部附属病院准教授(放射線治療部門長)の緊急メッセージを追加した。中川准教授は「がん検診は不要不急の検査ではありません」と強く呼びかけている。

7分弱の動画の中で中川准教授は①

がんは症状の出にくい病気。がん検診をあまり先延ばしするのは大変危険②緊急事態宣言が出てもほとんどの自治体ではがん検診が行われている。検診機関は十分な感染防止対策をとっている③このままでは進行がんになってから発見される人が増え、がんによる死亡率が上昇してしまう——と指摘し、「1年以上、検診を先延ばしするのはリスクが大きい。昨春に検査



動画で訴える中川恵一准教授

を見送った人はぜひとも3月までに検査を受けてほしい」と訴えている。

首相「状況分析し受診奨励」

菅義偉首相は1月21日、衆議院代表質問の答弁で、新型コロナによるがん検診受診者の減少について「検診の際の感染防止対策の徹底や早期に受診の機会を設けるよう自治体に要請するとともに、状況の把握、分析などを行い、受診を奨励する」と述べた。石井啓一氏(公明党)の質問。

受診勧奨にご活用ください

■緊急動画シリーズ

<https://www.jcancer.jp/coronavirus>

■PDF版チラシ「コロナ下でも『がん検診』は必要です!!」

<https://www.jcancer.jp/wp-content/uploads/covid-kenshin.pdf>

遠慮やあきらめは無用!

がんサバイバー・クラブ

GSC、男性向けアピランスケアの動画を配信へ

抗がん剤治療後のアピランスケア(外見ケア)への関心が高まるなか、女性に比べて男性向けの情報は十分ではない。そうした悩みにこたえるノウハウを満載した動画を日本対がん協会のがんサバイバー・クラブが制作した。資生堂の協力を得て、同社制作の男性向け外見ケアのブックレット「男の整



資生堂の担当者のサポートでメイクアップに挑戦＝東京都中央区の日本対がん協会

容本」の内容を動画化し、2月中旬からYouTubeで配信する。

抗がん剤の副作用で生じた肌の変化をカバーする簡単でわかりやすいテクニックを、眉メイク、肌色カバー、頭皮ケア、肌ケア、唇ケア、手指ケアの6編に分けて伝授する。

特にポイントとなるのは眉。脱毛の状態に合わせて、もとの眉に近い色のアイブロウパウダー(パレットタイプ)とアイブロウペンシル(眉墨)を使って描く。

眉毛がまばらに残っているときは、少量のアイブロウパウダーを小指にとり、眉骨に沿って弧を描くように指をすべらせ、何度か重ねつけしながら色の濃さを調整すると自然な眉が完成する。眉がほぼ脱毛した場合は、アイブロウパウダーに加えてアイブロウペンシルで眉毛を一本一本足すように2～

3ミリの縦線を眉頭から眉尻に向かって描くとリアルな眉ができて上がる、といった具合だ。撮影のモデルを務めたがんサバイバー・クラブの横山光恒マネージャーは「想像していたよりも難しくないと感じた」と感想を語った。



女性のがん患者さんの多くはアピランスケアでQOL(生活の質)を上げて、外出する楽しみや、美しくなることで笑顔を取り戻しています。男性のがん患者さんの多くは「男だから気にしちやいけな」と遠慮してあきらめてしまいます。プライベートやビジネスシーンにこの動画を活用していただき、がんとともに生きるためのプラスになるよう役立てていただきたいと考えています。

(大塚彩実・日本対がん協会がんサバイバー・クラブ担当)

乳がんマンモグラフィ集団検診 「医師立ち会い不要」が実現へ

マンモグラフィによる乳がんの集団検診が来年度から、医師の立ち会い不要で実施できる見通しとなった。日本対がん協会グループ支部からも強い要望が上がっていた懸案。全国の自治体から寄せられた立ち会い不要化の提案に対し、厚生労働省は「立ち会いを不要とする方向で検討し、2020年度中に結論を得る」との対応方針を示し、2020年12月18日に閣議決定された。同25日開催の社会保障審議会医療部会(厚生労働相の諮問機関)では、事前に責任医師の明確な指示を得ること、緊急時や必要時に医師に確認できる連絡体制の整備などを要件として立ち会いの不要化が了承された。今後、実施に必要な厚生労働省令の改正が行われる。

内閣府が全国の自治体に募集した「地方分権改革に関する提案」の一つと

して検討が進められていた。提案は最初に近畿・中国の6府県9市町から出され、その後、東日本・中部・四国・九州の11県市も追加共同提案団体に名を連ねた。

各自治体は、立ち会う医師の確保が難しく、報酬も高額であるため、検診実施の支障となっていると指摘。「医師を確保しても遠方から来場するため拘束時間も長時間となる等、医師の負担は大きく、報償費も高額となり、おのずと実施回数も制限される」と訴え、「立ち会いを不要化すると、医師の負担軽減とともに医師の都合によらず検診日程の設定が可能になる。受診機会の増加に寄与し、がんの早期発見につながる」と主張していた。

肺がん集団検診の胸部X線検査については2014年の診療放射線技師法改

正で、胸部X線撮影のみを行う場合は医師の立ち会いがなくても実施可能になっている。乳がん集団検診も2016年の国の指針改訂で視触診が推奨されなくなり、マンモグラフィのみで実施する場合は医師が立ち会う意味合いは薄らいでいたが、診療放射線技師法施行規則(省令)で立ち会い不要とできるのは胸部X線撮影に限られていた。

社会保障審議会医療部会は、マンモグラフィの医師立ち会い不要化にあたっての留意事項として胸部X線の場合と同様、①事前に責任医師の明確な指示を得ること②緊急時や必要時に医師に確認できる連絡体制の整備③必要な機器・設備、撮影時や緊急時のマニュアルの整備④機器の日常点検等の管理体制、従事者の教育・研修体制の整備——を挙げている。

ところざわ、 佐世保

リレー・フォー・ライフ

RFLの新実行委

がん患者支援のチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」の活動に2021年度、ところざわ(埼玉県)と佐世保(長崎県)の二つの実行委員会が新たに加わることが決まった。ところざわは埼玉県内でさいたま市、川越市に続く3カ所目の活動。佐世保は長崎県内で第1号となる。佐世保は6月12日、13日、直線のアーケード街としては日本一長いとされる960mの「四ヶ町商店街」を会場に開催を予定。ところざわは日本の航空発祥の地として知られる所沢航空記念公園を会場に今秋の開催をめざしている。

公益への私財寄付 「紺綬褒章」 認定団体に

日本対がん協会は、公益のために私財を寄付した個人・法人に授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を内閣府から受けた。

2020年12月10日以降、個人で500万円以上、団体・企業で1,000万円以上の寄付をした個人・法人について、日本対がん協会は「紺綬褒章」の授与を推薦する。

詳しくは日本対がん協会(https://www.jcancer.jp/about_donation/hoshoseido)と内閣府(<https://www8.cao.go.jp/shokun/index.html>)のホームページへ。

2月を 「希少がん月間」に 患者会ネットが制定

「休眠預金」を活用したがん患者支援事業で日本対がん協会と協働している日本希少がん患者会ネットワークが、今年から2月を「希少がん啓発月間」とし、希少がんを広く知ってもらおうという活動を始めた。特設ページ(<https://rarecancersjapan.org/rcam2021/>)で一般向けの解説や患者座談会などの動画を配信している。

希少がんは人口10万人あたり6例未満のまれながん。数が少ないため治療する側、治療を受ける側それぞれの課題がほかのがんに比べて大きいとされている。

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

詳しくは「チャリボン」 <https://www.charibon.jp/partner/JCS/>
(ISBNのバーコードがついた書籍類が対象です)

charibon by VALLE BOOKS

お問合せ(株式会社バリュブックス): 0120-826-295
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)

「MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと」

～ピンクリボンフェスティバルの新コンセプトに～

日本対がん協会などが主催する「ピンクリボンフェスティバル」はスタートして2020年度で18年目。乳がんを取り巻く状況がかなり変化してきたことから、今後5年間かけて取り組む活動コンセプトを再定義することにした。新しいスローガンは「MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと」。このスローガンのもとに、「正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す」というミッションと5つの啓発カテゴリーからなる新活動指針を設け、2021年度から新たな啓発活動を始める。

新しいスローガン「MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと」には、自分に合った正しい情報を正しく理解し、自分に必要な行動を考え実践できるようにするという意思を込めた。

コンセプトマークは、解像度の粗いハート形のビットマップ。「乳がんに関

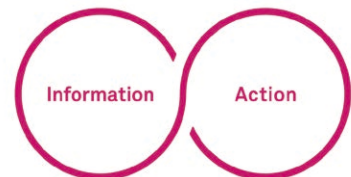
する正しい情報に対して解像度を上げて問題を見つめてほしい」という思いが込められている。さらに人々の多様性を尊重した啓発を行う方針をピンクのグラデーションで表現した。このコンセプトマークは今年1月から、日本対がん協会への申請によりピンクリボンに取り組む法人の活動での利用が可能となっている。

1つのミッション

新たなミッションは「正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す」。年代・考え方・生活様式・立場は一人ひとり異なる。ピンクリボンフェスティバルが乳がんの正しい情報を伝えることで、一人ひとりがそれを正しく

理解し、早期発見のためのセルフチェックや検診受診、適切な治療の選択や決定など、自分に必要な行動を考え実践できる力を身につけてもらえるように努める。また、患者・家族や周囲の人々の不安の解消につながる情報を伝え、生きやすい環境をつくる。

自分に合った正しい情報習得と
適切な行動を促す



MY PINK CYCLE

MY
PINK
ACTION

知ろう、自分と乳がんのこと。

がん検診の受診率向上策を検証する厚労省事業

日本対がん協会が実証事業者に

日本対がん協会は、国立がん研究センターとともに厚生労働省の「予防・健康づくりに関する大規模実証事業」の一つ「がん検診のアクセシビリティ向上策等の実証事業」で調査研究の実務を担う「実証事業者」に採択された。この実証事業は「がん検診の受診率を向上させるには、どのような手法で取り組むのが効果的か」について、エビデンス(科学的根拠)を収集して検証していくもの。全国の日本対がん協会グループ支部が提供している精度の高いがん検診をベースに、さまざまな受診率

向上策の効果についてエビデンス収集と検証を進める。

がんを早期発見・早期治療し、がんによる死亡を減らすためにがん検診は不可欠。国の第3期がん対策推進基本計画はがん検診の受診率を50%以上にすることを目標に掲げているが、現在のところ達成しているのは肺がん検診(男性)だけというのが実情だ。

こうした状況を打開するため、ノーベル経済学賞を受賞した行動経済学者リチャード・セイラー教授が提唱した「ナッジ」(ひじで軽く押す=選ぶ自由

を残しつつ、人々を望ましい方向へとそっと後押しする取り組み)の理論を取り入れたり、ソーシャルマーケティングの手法を使ったりして、さまざまな受診勧奨の試みが行われている。

今回の実証事業では、全国の支部が実施している検診の現場で、どのような受診勧奨を行うと受診率が向上するかなどを調査する。また、自治体から検診機関への委託契約に成果指標を取り入れている先進的な事例に関する情報収集も進める。期間は2023年3月までの予定。

5つのカテゴリー (ピンクリボンフェスティバル新活動指針)



セルフチェック
Self check
大切な
セルフチェック習慣

○日頃から自分の乳房に関心を持ち、定期的なセルフチェックを行うことの重要性を伝える。また、気になるところがある場合には医療機関への受診を促す。



検診
Medical examination
自分に合った
適切な検診を受診

○年齢や生活習慣、乳房の状態、遺伝性のリスクなどによって自分に合った検診に違いがあることを伝え、適切な検診受診を促す。



理解
Understand
不安や辛さ、
多様な悩みを理解

○患者・家族や周囲の人々が抱える不安や辛さは、人それぞれで違うことを理解し、相談できる場所など心の支えにつながる情報を伝える。



治療とケア
Treatment and care
治療とケアの
正確な情報

○乳がんの治療や療養生活に関する誤ったイメージ払拭や疑問解消を図る。また、がんとともに生きるための助けとなる情報を伝える。



新たな日常
New daily life
新たな日常に向け
必要な情報

○がんの経験、受け取り方や感じ方はそれぞれ異なるため、多様性を尊重する。また、今の自分と向き合うために必要な情報提供を行う。

「新コンセプト」取り組みの背景

ピンクリボンフェスティバルの活動が始まってから2020年度で18年目。この間に、医学の進歩による治療の個別化、治療と仕事や生活の両立、治療の長期化、周囲の理解や関係性など、乳がん罹患者と周りの人々を取り巻く環境は大きく変化した。早期発見のために必要な乳がん検診に関しても、年齢や乳房の状態、遺伝のリスクなどに

よって適切な検診に違いがあることが明らかになってきた。

そこで、乳がんに関する“今”の課題を改めて考え、今後5年間かけて取り組んでいく新しい活動コンセプトを再定義するにあたり、生活者調査、罹患率調査を実施した。さらに乳がん患者会、乳がん専門医により組織する検討委員会での意見交換を経て、新コンセプトとミッション、5つのカテゴリーを設けた。

乳がんの課題検討委員会メンバー

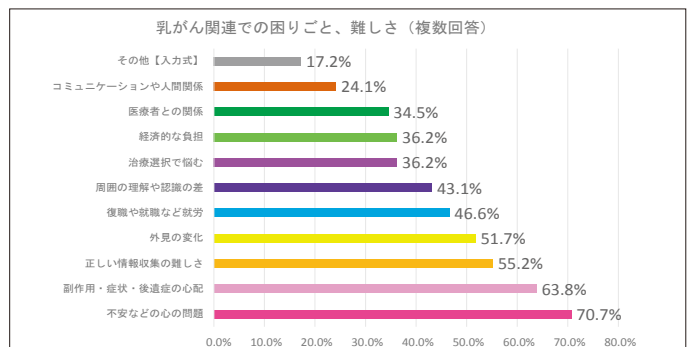
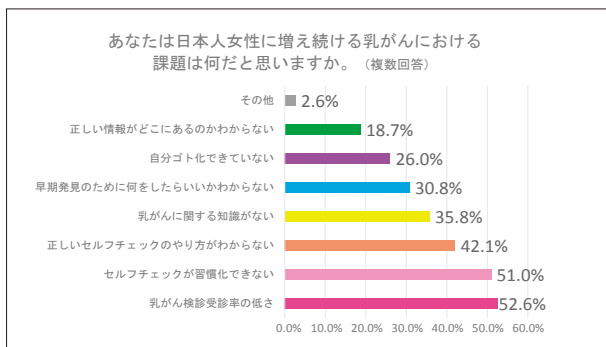
- 昭和大学医学部乳腺外科教授、
日本乳癌学会監事 **中村 清吾氏**
- 聖路加国際病院副院長・
プレストセンター長・乳腺外科部長 **山内 英子氏**
- いながき乳腺クリニック院長 **稲垣 麻美氏**
- 若年性乳がんサポートコミュニティ
Pink Ring 代表 **御船 美絵氏**

乳がんの「今」生活者調査から (一部抜粋)

- ◆セルフチェック・検診 まだ少なく
乳がんを取り巻く問題について、20~60代の女性にアンケートをした。乳がんのセルフチェックを継続的にしている人は、わずか9%。国が定めるマンモグラフィ検診の対象年齢40歳以上の約7割が検診に行ったことがあるものの、その適正年齢を知らない人は73%にのぼった。
- ◆情報はどこに? 自分ゴト化できない
乳がんについての課題を聞いたとこ

- ろ、セルフチェックや検診率の低さ以外にも、「乳がんに関する知識がない」「正しい情報がどこにあるのかわからない」「自分ゴト化できていない」など、様々な課題があることが分かった。
- また32%の人が、周りに乳がん経験者がいるものの、「どう声をかけていいかわからない」「悩みをうまく聞いてあげられない」「辛さを理解してあげられない」など、戸惑いや無力感で悩んでいることも明らかになった。

- ◆仕事は? お金は? 家族は?
不安多く
乳がん罹患経験者への調査では、実際に困っていることに関して「心の問題」「治療や副作用」「情報収集」「復職や就職」「外見の変化」「周囲の理解」「経済的な負担」など、人それぞれで違うことが分かった。多様な悩みを理解し、治療や相談先、ケアの内容など、正確な情報を伝えることの重要性が明らかになった。



「休眠預金」活用事業シリーズ③

安心して性について語り合える 社会にしたい！

がん患者の性に関する悩みを専門に相談するプロジェクト

CNJ「がん患者の性の悩み 専門相談プロジェクト」

休眠預金を活用してがん患者の支援事業を担う認定NPO法人「がん患者の性に関する悩みを専門に相談するプロジェクト」(CNJ)は、「がん患者の性生活(セクシュアリティ)～心と体に及ぼす性的側面のサポート～」の事業に取り組んでいる。がんの治療に伴う外見的、機能的、精神的な変化は性にも影響を及ぼすが、それらに関する情報は非常に限られている。また、生命に直結はしない問題のため、医療従事者と患者(及びパートナー)との間で個別事情に応じた相談や情報共有が必ずしも行われないケースが多い。そうした現状を変えようと、CNJは「性に関する新しい専門相談の仕組みづくり」へ名乗りを上げた。その活動とめざすものについて、木原康太事務局長とプロジェクトを牽引する看護師の池田明香プロジェクトマネージャーに話を聞いた。聞き手は、日本対がん協会の無料電話相談「がん相談ホットライン」で日々患者・家族の声に耳を傾ける社会福祉士の北見知美マネージャー。

(取材と構成・日本対がん協会 休眠預金活用事業担当)



安心して自分らしく生きる

北見 CNJさんの活動は医療情報の発信をはじめ幅広いですが、性の専門相談の事業を立ち上げようと思ったきっかけは何ですか。

悩みは多様、 でも認知度は低い

木原 CNJは1991年、乳がん患者向けのパンフレットの無料配布から活動が始まりました。今でいう「インフォームド・コンセント」への着目から、科学的根拠に基づく正確な情報発信を信条としています。今回の事業に関しては、「がん対策推進基本計画」(第3期)で「診療早期における生殖機能の温存、後遺症及び性生活(セクシュアリティ)に関する相談支援並びに情報提供の体制が構築されていない、十分な検討がなされていない」という現状認識がなされている一方で、具体的な施策が織り込まれていないことに問題意識を感じていたのが始まりです。

医療の進歩により、がんを克服して、あるいはがんと共に社会生活を送れるようになり、就労支援などの課題も見えてきました。しかし、それらに比べたら、このテーマへの認知度はまだまだ低いです。このような状況を改



木原康太事務局長

善すべく、情報発信していくのがCNJの一つの役割でもあります。これまで培ってきた医療従事者とのネットワークを活かし課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

池田 私の場合は10年以上前になりますが、看護師の仕事として血液がんのサバイバーとしてがん相談を受ける機会があり、仲間と定期的に勉強会を開いていたのです。がん患者の性に関することもその一つでした。それをきっかけに、がん患者やパートナー向けのセクシュアリティに関する小冊子作りを手伝う機会がありました。

それから10年以上経過し現職についてある時、その冊子の内容がほとんど変わっていないことを知り、もっと様々な相談に対応できるようにアップ

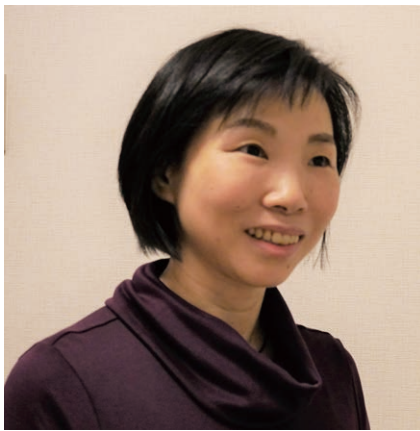


がん患者の「性」に関する悩み・本音(例)

- ・性別の異なる医師に話すのは恥ずかしい。
- ・産婦人科？ 泌尿器科？ どこに相談すればいい？
- ・がん治療後の妊娠、出産、子どもへの影響は？
- ・相手(パートナー・恋人など)にどう話してよいかわからない
- ・性生活に消極的になった。セックスも怖い。
- ・パートナーともギクシャク……

(注) Japan Cancer Forum 2020. 「がん患者の性について考える～セクシュアリティについて安心して語り合える為に～」渡邊知映 氏(昭和大学 保健医療学部 教授) 講義より抜粋・編集

デートしたいと思うようになりました。性の悩みは、特にAYA世代共通でかつ個別性の高いテーマです。がん患者の“妊孕性”への理解は進みましたが、性の悩みはセンシティブな話題ということもあって、「命が助かったのだから……」と無意識にあきらめたり、「しかたがない」「どこに相談したらいいの？」で止まったりすることが多いです。ここを改善できれば、一人ひとりの活動性が高まり、生活がより豊かになると思いました。そのような時に、日本対がん協会の休眠預金活用事業公募のことで知り、本事業の立案に繋がりました。



池田明香プロジェクトマネージャー

敷居を下げ、新しい形を

北見 ホットラインでも妊孕性だけでなく性に関する悩みや疑問の相談はあ

プロジェクトの目的

がん患者・患者パートナーの性(セクシュアリティ)に関する相談や専門科にかかることが選択肢の一つとして当たり前になる

プロジェクト 4つの目標

- ✓ 必要な人へ、必要な情報を分かりやすく届ける
- ✓ コミュニケーション手段が増える
- ✓ がん医療に関わるサポーターの認知度が上がる
- ✓ がんのセクシュアリティに関する相談が身近になる

ります。ただ、“性=恥ずかしい”という気持ちが強く、お話の最後のほうでやっとためらいがちに、話しにくそうに触れてくるケースがほとんどです。性全般の多様な悩みや専門家への橋渡しを含め課題を感じていたので、CNJさんの事業を知ってとても期待しています。内容を教えてください。

木原 私たちはこのプロジェクトを通じて、がん患者・パートナーが安心して性について語り合える社会を目指しています。そのためには、国内で情報が乏しい性(セクシュアリティ)の問題を専門家監修のもと広く情報発信します。また、センシティブな内容なので、相談しやすいツールであるアプリでハードルを下げ、婦人科医、泌尿器

科医、看護師、セックスカウンセラーといった専門家に相談できる仕組みづくりを目指しています。

池田 事業計画では「4つの目標」と「5つの柱」を掲げています。その中で第一の肝は患者さんやパートナーが無意識にあきらめていた悩みを“意識化”していくことです。「もしかしたら誰かに聞いてもらえるかも」「解決のきっかけになるかも」「恥ずかしいことではないよね」と思ってもらえるような仕掛けです。そうしなければ次のステップには進めません。



北見知美マネージャー

二つ目は、性の悩みに応えるためのコンテンツ整備です。性教育の要素も含め体系的にまとまっているものがないので、各分野の専門家の協力を得ながらWebの特集ページを構築していきます。公開時は約50項目の記事を想定していますが、性教育の内容から海外の情報まで徐々に記事の内容を増やし、個別相談やQ&Aも追加してブラッシュアップしていきます。この

プロジェクト5つの柱

専門相談ツールの開発

がん患者の性に関する専門家への相談のハードルを下げ、アプリでの無料相談を実施

情報発信

WEBを使ってがん患者やパートナーのニーズに合った情報を広く発信

講演会・セミナー

広く理解していただけるようWEB講演会等を開催

LINE スタンプ

LINE スタンプでコミュニケーションを支援

小冊子作成

医療現場でのセクシュアリティ支援をサポート

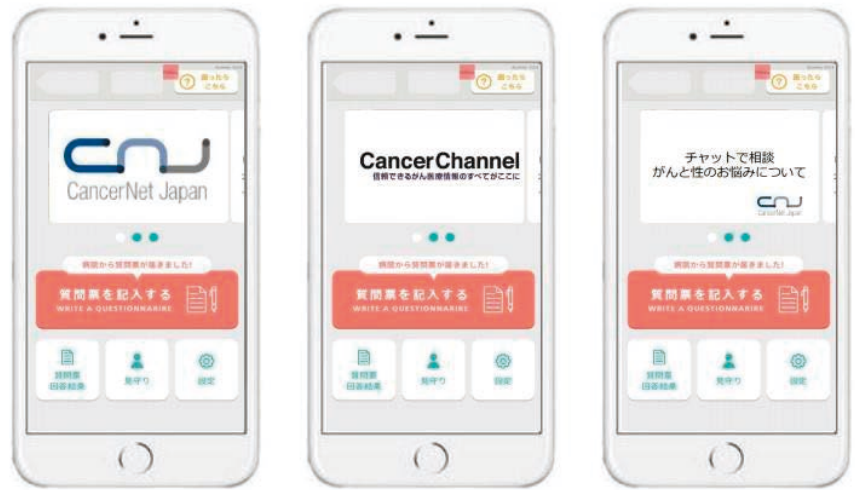
2つを両輪に、患者さんや経験者の目に留まるよう分かり易い発信や共有の場を工夫します。

アプリのチャットで 無料相談

北見 事業の枠組みがよく分かりました。“意識化する”、“相談の敷居を下げる、目に留まる”というお話でしたが、具体的にはどのようなアイデアがありますか。

池田 まずアプリでの無料相談。チャット形式の専門相談や必要な情報へのアクセスが簡単にできるほか、テーマに合わせたコミュニティの作成、患者さんが日々の体調等を記録し自己管理できるような機能を付けるなど、より使いやすいアプリを工夫していきたいです。併せて、セミナー以外に座談会やオンラインイベントなど、ざっくばらんな交流の機会も設けていきたいです。AYA研究会の“AYA Week”(3月)でも患者・配偶者を含むパートナーに向けて体験談等の共有を考えています。一方、Webだけでは届かない層には小冊子など紙媒体の形で、拠点病院の協力を得て伝えていきます。

北見 がん相談ホットラインには、未婚・既婚、性別を問わず相談が寄せられています。「性交渉のことで……」と使い慣れない言葉のようで、ぎこちなく切り出される方は多いものです。相談内容は、性交渉のことや、治療によって生じた外見の変化に伴って、パートナーとの性生活に前向きになれない気持ちや、パートナーへの気持ちの伝え方やそのタイミング、パートナーが異性として見てくれなくなったなど実



スマホアプリのイメージ(準備中)

に様々です。

理解あるパートナーに恵まれている方もいらっしゃると思いますが、その優しさがかえって辛いとか、申し訳ない気持ちになるという複雑な心境を話される方もいます。性に関する悩みはオープンにできない方が多いだけに、自分だけが悩んでいると思っている方は少なくありません。ですから同じように悩んでいる人と普段の言葉で会話できる場があるというのはいいですね。一方、医療従事者はどのように関わっていったらよいのでしょうか。

池田 看護師は一定の教育を受けていますが、看護師自身が若いとやはり恥ずかしさがあります。「性の相談サポートは必要ですよ」ということを伝えたいです。どのように接するか、話しやすくするきっかけとして小冊子を使ってもらいたいと考えています。

北見 相談を受ける側の意識やスキルも重要ですから、私たち相談員は対応がどうだったかを振り返ることや、継続的に研修を行うことで相談の質の担保や向上に努めています。情報収集も大切ですが、性に関する情報は現状では限られていますので、今後はCNJさんで取り組まれる性に関する情報は共有させていただきたいです。

池田 この事業では電話相談までは考えていませんが、まずはチャット形式でのコミュニケーションに慣れてもらい、その悩みに応じてスペシャリスト集団の各専門の先生が対応する形

を、ステップを踏みながら積み上げていきたいと思います。コンテンツの総監修は昭和大学保健医療学部教授の渡邊知映先生にお願いしていて、泌尿器科のことはこの先生、性のことはセックスカウンセラーに、という具合にチームとして対応していきます。あと大事なことです。セキュリティやプライバシーの担保です。掲示板やZoom形式などでも安心して話し合えるインフラ環境をしっかり整えたいです。

また、性のことをもっと気軽に語ってもらえるように、キャラクターをつくりました。名前は公募し、591件のネーミング案が寄せられました。SNSの投票で決定し、さらに輪を広げようと思います。私たちの事業の相談はアプリで始めますが、対がん協会のホットラインでの生の声は貴重なので今後も聞かせてください。

北見 これからもより良いがん相談ができるように情報交換など連携していきたいです。本日はありがとうございました。



この事業は、金融機関の口座で10年以上出し入れがない「休眠預金」を社会課題解決に活かすプロジェクトの一つです。「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」をミッションとし、資金分配団体に選ばれた日本対がん協会の協力のもと、その実行団体の一つに採択されたキャンサーネットジャパンが行うものです。



591件のネーミング案が寄せられたキャラクター